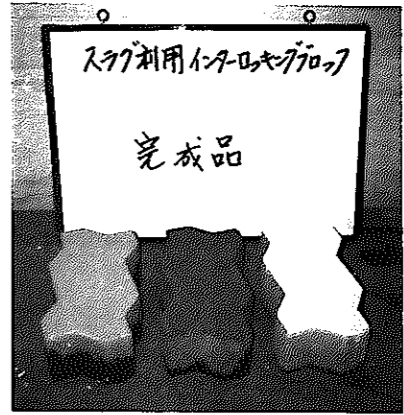


焼却灰から 資源をねん出

白根衛生センター組合
リサイクルブロック

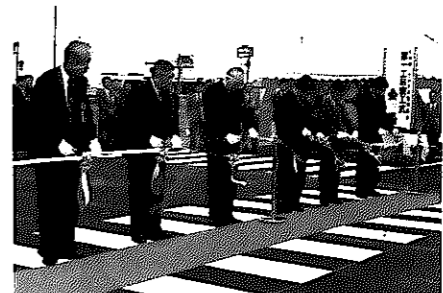


ごみの再利用を進める白根衛生センター組合では、このほど焼却灰を使って工用ブロックを作ることに成功しました。このブロックはすでに市内の歩道などに使われ、リサイクル活動として各地から関心を集めています。

同組合のグリーントワーは、リサイクル機能を備えた最新鋭のごみ処理施設。焼却灰に一千度以上の高熱を加えて溶かし、リサイクル用のスラグという粉末に変えることができます。灰の量はこの段階で二分の一から三分の一ほどに減少します。スラグは砂や小砂利の代替えができ、今回のブロックには四〇パーセントほどのスラグが混ぜ込まれました。強度、安全面でも心配ないとして、試験的な使用ながら、ジャスコ前の交差点をはじめ、中央通の歩道、組合管内の小須戸町のデイサービスセンターでも利用されています。「焼却灰の処理についてはどの自治体も頭を悩めています。ごみが増え続ける今日、何らかの形でリサイクルに回すことはどうしても必要になってきます」と同組合は話します。赤、白、オレンジの三色のブロック。ごみから生まれた資源は、私たちの道に見事な花柄模様を描いています。

北部ニュータウン 下水道処理施設を完備

北部ニュータウン
第一工区完成式



白根第一土地区画整理事業として大通南団地南側に造成されていた北部ニュータウンの第一工区の造成が完了。八月四日、完成式が行われました。同事業は、平成三年度から開始され、平成四年度に白根第一土地区画整理組合が発足。事業を進めてきました。今年度は第二工区（九・八ヘクタール）を事業に追加。総面積三十・八ヘクタール、総事業費四十六億二千六百万円となりました。同区は、白根市では初めて下水道処理施設を完備。平成十年度に全区の造成が完了する予定です。

越後の川と道、 どう、生かす?

建設省事務所
ザ・フォーラム

川や道を使ったまちづくりを考えようと、信濃川流域の建設省事務所主催のフォーラム「越後の川・道を軸とした地域づくり」が八月九日、十日、カルチャーセンターで開かれました。このフォーラムは今年三月に川口町で初めて開催されたもので、今回が二回目。前回、出席した竹内市長が幹事を引き受

け、白根市での開催となりました。県内外の学識経験者、文化人ら約百二十人が出席する中、牛嶋国土庁計画課長の基調講演や、白根市長、分水町長、柏崎市長、津南町長、飯山市長らによるパネルディスカッションなども行わ

茨曾根地区に 県知事賞

新潟県
農村アメニティコンクール



県と県土地改良事業団体連合会、県農村総合整備推進本部が主催する新潟県農村アメニティコンクールで、茨曾根地区が県知事賞の優秀賞を受賞しました。同コンクールは、歴史や恵まれた自然環境を生かし、快適に暮らせるよう積極的に活動している農村地区を評価するというもの。県内各地から十二の市町村や団体が応募し、その中から白根市をはじめ三川村、中之島町など五カ所が県知事賞に選ばれました。

茨曾根地区は、公民館を中心とした地域の活性化につながる事業を展開。最近では、百歳健康教室やふるさとハイキング、花いっぱい運動などさまざまな事業を実施し、子供からお年寄りまでが積極的に参加しています。これらの活動が高く評価され、今回の受賞となりました。

同地区公民館長の関根喜八郎さんは「農村地区も生活が近代化し、親子、老人とのコミュニケーションが少なくなった。そんな中で、子供たちに対して物を大切にすることを育てていきたいと思ひ、事業をしてきた。これが認められて非常にうれしいこと。私一人ではとても出来ないの協力のおかげ。感謝しています」と受賞の喜びを語ってくれました。

頼もしき青少年群像

市民大会

白根市青少年健全育成市民大会
社会を明るくする運動市民大会



白根市青少年健全育成・社会を明るくする運動両市民大会が七月二十九日、カルチャーセンターで開催されました。

大会ではスポーツを通じて青少年の健全育成に貢献した団体・個人や、全国高校総体等出場選手への表彰のほか、中学生による「少年の主張大会」も行われました。市内五中学校から十二人が参加し、ボランテニア活動、いじめ問題、家族の絆などについて堂々の主張が行われ、聴衆の共感を呼び起こしていました。



第2回「越後の川と道、を軸とした地域づくり」